

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和7年7月3日 ~ 令和8年3月15日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 IV. その他夜間中学における教育活動充実に関すること 「夜間中学の教育活動への展開を目指した、大人の生徒にとっての効果的な校外学習の在り方」
調査研究のねらい	<p>天理市立北中学校夜間学級には、2025年2月1日現在34名の生徒が在籍している。戦争や差別、貧困・病弱・障害などで学齢期に教育を受ける機会を十分に保障されなかった学齢超過の義務教育未修了者や、結婚や仕事等で主にアジア・南米から渡日した定住型の新渡日の外国籍者、不登校等により実質的に十分な教育を受けられないまま中学校を卒業し学び直しを求める入学希望既卒者、等が学んでいる。また2025年度からは、天理市内の昼間の中学校で不登校となっている学齢生徒を、本人の希望を尊重した上で、在籍校に籍を残したまま夜間中学において受け入れることとなっている。</p> <p>学齢超過の義務教育未修了者は、生活経験を積み重ねている一方で、学齢期に十分な学びがなかったことで、社会状況理解や社会経験、学習知識に偏りや不足が見られ、そのことによって自尊心を高く持つことができずに社会参画や物事への取り組みが消極的になる傾向がみられる。</p> <p>また、新渡日の外国籍者の場合、その背景として持っている文化、母語、価値観等が非常に多様であり、日本事情の理解と経験に偏りや不足がみられる。</p> <p>また、入学希望既卒者や不登校の学齢生徒の場合、家庭環境や不登校となった原因・理由が異なっており、それぞれの生徒の過去の人生経験へ十分に配慮しながら、社会見学や体験学習の実施、将来の生き方を見据えた進路指導と教育相談が必要であり、個々の生徒の特性に応じて学習目的を明確にし、カリキュラムや習熟度にてらした学習の進め方等を工夫することが求められている。</p> <p>このように本校では、年齢、生活歴や文化や価値観、学習歴、母語の違いや日本語指導の必要性等、多様な背景をもつ生徒がともに学んでおり、このことは、多様な意見や文化に触れて多様性を実感し学習意欲が向上する等のいい面がある一方で、学校生活における生徒の意思疎通や共感・相互理解、学習の進め方等に課題もある。</p> <p>この解決のためには、生徒どうしが積極的に関わりを持ち、互いの違いとその背景を十分に認識しつつ、ともに学ぶ仲間と</p>

	<p>して結びついていけるような仕組みを教育課程の中で工夫することが必要である。また、夜間中学の生徒は大人であるため、それぞれの生徒が持つ生活経験を掘り起こし、相互理解や学習につなげることが可能である。</p> <p>そのため、今年度の「夜間中学の設置促進・充実事業」における委託研究「夜間中学における教育活動充実に係る調査研究」に取り組む本校のねらいを、次の通りとする。</p> <p>■「夜間中学の教育活動への展開を目指した、大人の生徒にとっての効果的な校外学習の在り方」の研究</p> <p>本校には多様な背景を持つ生徒が集まっていることから、生徒の多様性に配慮した上で、大人の生徒が持つ生活経験を掘り起こす社会見学や体験学習を校外学習として実施し、生徒の日本事情の理解と相互理解をすすめ、夜間中学の教育活動へ展開することを目指したい。</p> <p>具体的には、生徒の経済的負担の軽減を目指した校外学習の在り方、多様な違いを持つ生徒どうしの理解・共感・結びつきの促進を目指した校外学習の在り方、識字・日本語学習をしている生徒の言語習得状況へ配慮することを目指した校外学習の在り方、大人の生徒が持つ生活経験を掘り起こす社会見学や体験学習を取り入れた校外学習の在り方、現地で学んだことと生徒個々の生活とのつながりを地域へ発信する校外学習の在り方、そして、これらの取り組みを通したセルフエスティームの伸長や学習意欲の向上、等について研究し、その成果と課題を分析したい。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>【7月】</p> <p>◆校内研修を行った。</p> <p>生徒背景理解や「やさしい日本語」の使用を含めた職員研修・職員交流を行い夜間中学教員としてのスキルアップを図った。</p> <p>◆検討会議(1回目)を行った。</p> <p>学校外で具体的事物に触れて学習する校外学習の意義・目的を「教室での学習内容や大人としての見聞・経験を深める」「職場や地域等の社会生活で求められる集団行動を身につける」「地域に戻って積極的に参画できるように経験を積む」等と確認した。</p> <p>大人の生徒が効果的に日本社会事情を理解することのできる社会見学や体験学習とするためには、「経済的負担を減らす」「生徒相互の理解促進と交流を進める」「識字・日本語への配慮を行う」「学習と生活をつないで発信する」等を考慮する必要があり、具体的な計画には、大人の生徒が持つ経験を掘り起こす内容を設定して興味関心を引き出し、学習への意欲を高めると同時に、生徒が持つその経験を発信できるようにプログラムする必要があ</p>

ると確認した。

また、校外学習が「効果的」であったかどうかを測定するために、参加感想アンケートを集める、生徒の変化を観察する、授業等で理解深化があるかを観察する、満足度を聞き取る、等を行うこととした。

◆生徒の学習状況・生活状況について担当教員から報告を受け、学習歴や学齢期に教育を受ける機会を十分に保障されなかった理由、生活状況や就職の有無、来日理由、識字・日本語能力、等の生徒個々の課題を明確にしつつ教職員で共有した。

◆具体的な校外学習と教育活動への展開を次のように計画した。

- ・京都伏見の日本酒造りを通じて発酵について学ぶ。
- ・伏見の街と伏見稲荷大社を訪れて日本酒が日本の歴史と文化に深くつながっていることを学ぶ。
- ・ともに行動することで生徒相互の交流を深める。
- ・理解を深めるために、授業での事前学習と、バス乗車時間を利用したワークシートによる学習を行う。
- ・参加感想は作文制作へとつなげる。
- ・生徒それぞれの生活経験である発酵・醸造について、文化祭や市民向け広報・啓発活動で「生徒のふるさとのお酒の文化」として発信する。

◆校外学習についての下見を行った（京都市伏見区）。

◆生徒の生活経験である発酵・醸造について、「生徒のふるさとのお酒の文化」として生徒本人によってまとめていった。

◆検討会議(2回目)を行った。

下見の結果を含めて校外学習の計画をブラッシュアップした。目的地での物事と大人の社会生活との結びつきがわかるよう工夫した事前学習、日本社会事情・職業進路につながるよう工夫した事前学習、ワークシートの作成、識字・日本語能力による理解不足を防ぐための多言語による学習補助や通訳補助の実施、交流を含めたグループ活動の実施、等を検討した。

【9月】

◆校外学習についての説明会を実施した。識字・日本語学習者への配慮として、ネイティブ話者である非常勤講師に協力してもらい、校外学習の意義・目的・訪問先の説明等を行った。

◆生徒の生活経験である発酵・醸造について、「生徒のふるさとのお酒の文化」として生徒本人によってまとめていった。

◆校外学習の事前学習を3回実施する予定であったが、行事等との兼ね合いで延期した。

◆バス車中での学習のためのワークシートを作成する。

【10月】

◆校外学習を実施した。

◆バス移動時間を利用して、ワークシートを使った学習や生徒交

流を行った。

◆参加生徒から参加感想アンケートを集約した。

◆生徒の生活経験である発酵・醸造について、「生徒のふるさとのお酒の文化」として生徒本人によってまとめていった。

【11月】

◆文化祭で、校外学習の取り組みについて展示した。

また、校外学習で学んだ日本酒造りから発展させて、生徒それぞれの生活経験である発酵・醸造について、「生徒のふるさとのお酒の文化」として展示し発信した。多様な生徒が在籍している夜間中学からの多文化共生を意識した発信となった。

◆先進校視察を行った（福岡市立福岡きぼう中学校）。

◆先進校視察を延期した（教員の長期休業のため）。

【12月】

◆検討会議(3回目)を行った。

校外学習や文化祭での発信について、参加感想アンケートや職員による観察結果や生徒への聞き取りをもとに、反省・意見を出し合った。

◆校外学習や文化祭での発信から、作文制作につなげるよう指導し取り組むことを確認した。

◆先進校視察を延期した（教員の感染症罹患のため）。

【1月】

◆先進校視察を行った（三豊市立高瀬中学校）。

◆作文指導に取り組んだ。

【3月】

◆検討会議(4回目・総括会議)を行った。

調査研究によって得られた知見を本校の教育活動にどう活かせたのか、今後どう活かすのか協議し総括した。

校外学習に参加した生徒の満足度は高く、消極的行動姿勢が変容した生徒のようすも共有できた。生徒個々のアイデンティティやセルフエスティームに良い影響を与えており、学習意欲の向上にもつながっており、意義・目的・ねらいに照らして、おおむね効果的であったと評価した。識字・日本語学習者への支援については十分とは言えない面もあるが、大人の生活経験とつながる校外学習を起点とした教育活動への展開は、生徒どうしの理解や連帯感を醸成し、インプットだけでなくアウトプットすることにつながり、すべての生徒層に効果的であると総括した。

観点別にみると、生徒それぞれの生活経験である発酵・醸造とつながる学習内容であることから、「知識・技能」の観点では、経験的習得によって十分満足な状況がみとれたが、「思考・判

断・表現」の観点では、科学的理解が不足しがちなため論理的に発酵・醸造の過程を捉えるには努力を要する生徒も多かった。しかし、生活経験とつながることへの興味関心は高く、「主体的に学習に取り組む態度」は十分満足であった。生活経験とつながる校外学習では多くの生徒にこの傾向が見られると考えられる。

今後も、大人の生活経験とつながる校外学習を継続して実施し、その学習から作文をはじめ文化祭等での発信・発表につなげていきたい。

◆委託事業成果報告書をまとめた。また、他の夜間中学においても校外学習を計画する際に参考となる事例紹介の冊子を成果物として作成した。

◆多様な生徒が在籍している夜間中学から地域へ多文化共生を発信することを意識して、市民向け広報・啓発活動として、天理駅前施設コフフンにおいて文化祭と同様に、校外学習での学びと生徒それぞれの生活経験である発酵・醸造についての「生徒のふるさとのお酒の文化」を展示し発信する(予定：2026年3月17日～23日)